

2024~2025 年度クラブ運営方針
「生み出そう感謝される喜びを」

国際ロータリー第 2750 地区 多摩中グループ

東京昭島中央ロータリークラブ

TOKYO AKISHIMA-CHUO ROTARY CLUB



2024 年 (令和 6 年) 9 月 25 日 (水)
第 1643 回例会報告

事務局 〒196-0034 東京都昭島市玉川町 3-10-1 ヒルパークハイツ 1F TEL 042-544-1001 FAX 042-544-1002

●本日の司会 (宮下 幸司 SAA)



●開会点鐘 (田畑 勝久会長)

●国歌・ロータリーソング「我らの生業」斉唱

●本日のお客様

母子支援施設 サンライズ万世
所長 池田 康子様

国際ソロプチミスト昭島
会長 大貫 昭子様
実行委員長 栄田 宏美様
西野 芳子様

●ご案内 (国際ソロプチミスト昭島様)



皆様、こんばんは。コロナ禍が長く続き、皆様と一緒に集まり食事をしたり、楽しくお話する機会がなかなかありませんでしたが、まだ完全な収束には至っていないものの、そろそろ皆様が集まってもよい頃ではないかと思ひ、この度、ソロプチミストでは徳永ゆうきさんによるチャリティランチコンサートを開催することにいたしました。徳永ゆうきさんのことはご存じの方もいらっしゃると思いますが、彼の歌唱力は素晴らしく、また、鉄道マニアとしても知られています。彼のトークも非常に楽しく、皆様にはぜひ参加していただき、大いに笑っていただければと思っております。

なお、会場となる昭和館は、来年 1 月をもって閉館となります。このコンサートは昭和館での最後の大きなイベントとなる予定ですので、ぜひ多くの皆様にご参加いただきたく、よろしくお願いいたします。

●会務報告 (田畑 勝久会長)



皆様、こんばんは。本日は、9 月 22 日 (日) に千秋楽を迎えた大相撲の最高位である立行司、木村庄之助さんのお話をさせていただきます。木村庄之助さんは、島根県出雲市のご出身で、私たちの初代会長とも同郷です。出雲大社の境内には「相撲の神」と称される野見宿禰 (のみのすくね) を祀るお神社があります。江戸時代最強と言われた豪力士である雷電 (らいでん) も松江藩の出身で、相撲と深い縁のある土地で育ったことを、木村庄之助さんも誇りに思っていました。

彼は、大変な心の強さを持ち、何があっても動じない姿勢を貫かれています。立行司は、判定を誤れば切腹も覚悟しなければならない厳しい職務です。その重責を担いながら、土俵に上がり、常に「今日が最後かもしれない」という覚悟で務めてこられました。50 年にもわたる行司生活を、9 月 22 日 (日) の千秋楽で立派に締めくくられた姿には、感銘を受けました。大相撲は力士が主役であることは間違いありませんが、様々な脇役の力なくしては成り立ちません。違った視点から相撲を観戦すると、新たな面白さを感じられるかもしれません。

●幹事報告 (岡野 和弘幹事)



皆様、こんばんは。池田康子様、本日はご来訪ありがとうございます。

9 月 19 日 (木)、第 8 回多摩中グループ協議会が品川の船清で開催され、田畑会長と幹事の私が参加いたしました。各クラブの会長、幹事と情報交換を行いました。

東京広尾ロータリークラブより、創立 25 周年記念例会、記念コンサート、祝賀会の案内が届いております。日程は、2025 年 1 月 21 日 (火) 午後 5 時開始です。参加を検討される会員は事務局までお問い合わせください。

多摩中各ロータリークラブより例会変更の案内が届いておりますので、メイクアップを予定している会員は事

事務局へお問い合わせください。案内が届いているクラブは、立川ロータリークラブ、武蔵国分寺ロータリークラブ、国立ロータリークラブ、井ノ頭ロータリークラブです。

本日の例会終了後、理事会を開催いたしますので、理事の会員はご出席をよろしくお願いいたします。

●卓話「母子支援施設について」 サンライズ万世 所長 池田 康子様

講師紹介（中野 勝夫会員）



池田様は都内の施設から今年の4月に昭島市のサンライズ万世にられました。サンライズ万世は、皆様ご存じの双葉園と同じ建物の中にごさいます。本日は、母子生活支援センター施設のことにつきまして、いろいろお話をさせていただきたいと思ひます。

卓話



昭島中央ロータリークラブの皆様、本日はお時間をいただきありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

母子生活支援施設は、社会福祉施設の中でもあまり知られていないものです。私どもの施設は昭島郷地区にごさいます。場所は、

東中神駅の北口に位置する昭島病院や双葉園、昭和保育園、昭和第二保育園、フジホーム、ニューフジホームといった老人ホームや保育園の近くです。これらの施設は皆様もご存じかと思ひますが、母子生活支援施設に関しては、福祉を勉強している方でも学ぶ機会が少なく、なかなか知られていないのが現状です。皆様の中には、昭島に長くお住まいの方もいらっしゃると思ひますので、昭和郷地区についてもよくご存じかと思ひますが、サンライズ万世は、昭和21年10月にあの地区にあった陸軍航空技術者養成所の宿舎を改築して設立されました。当時は「万世母子寮」と呼ばれており、戦後の時期で、ご主人を戦地で亡くされた母子家庭が多く入居されていました。その後、戦争未亡人の方々が減少し、現在では離婚された方やDV被害を受けた方が多く利用される施設となっています。現在の建物は平成15年に建てられ、双葉園、昭和保育園、そしてサンライズ万世が一つの建物内にあります。

母子生活支援施設は、児童福祉法に基づき、母子が一緒に住む児童福祉施設です。児童福祉施設としては少し特殊で、親子と一緒に生活することを前提とした施設です。昭和23年に児童福祉法が制定された際には「母子寮」として設立されましたが、平成10年に社会問題への対応が進む中で「自立支援」の目的が加わりました。その際、施設の名前を「サンライズ万世」と変更し、現在の形になりました。

また、平成16年の児童福祉法改正により、施設を退所した後の支援も行うようになりました。法律では0歳から18歳までのお子さんが入所できると定められていますが、自治体の規定により、概ね2年ほどで退所することが求められています。そのため、退所後も支援が必要な場合には、施設としても引き続きサポートを行っています。皆様にお配りしたパンフレットですが、施設の場所は公表しないことになっており、東京都が作成した一般的な

母子生活支援施設の説明パンフレットをお渡ししています。施設の独自パンフレットではなく申し訳ありませんが、これにより、困っている方への案内や説明を行うことができる内容になっております。

現在、サンライズ万世には20世帯が入居できる1DKや2DKの部屋が20室あります。昭島市内だけでなく、他の地域からの利用者も受け入れており、現在は13自治体からの入所者を受け入れており、そのうち3自治体は東京都外の地域からです。理由としては、DVなどでご主人から避難しなければならない方たちが、昭島市以外の遠方から避難してきて、サンライズ万世で生活し、また新しい地域へと移り住む形となっています。そのため、ほとんどの入所者がDV被害者の方々です。DV被害者の場合、突然の避難が必要になることが多いため、家電や生活用品、さらにはお子さんの学用品さえ持ってこれないこともあります。着のみ着のまま入所される方もいらっしゃいます。こうした方々がたった2年という短期間でサンライズ万世を退所し、新たな生活の場を築いていくのは非常に大変です。たとえば、3歳で入所されたお子さんが、保育園を卒園する前に退所し、小学校に上がる前に引越しなければならぬ状況に直面することもあります。私たちは、少しでも安心して地域に出て行けるよう支援を行っています。住所は非公開ですが、サンライズ万世にはシェルターとしての機能もあります。しかし、ここでは生活の基盤を作っていく場所でもあり、皆さんは学校や保育園に通い、仕事もされています。地域社会から隠れて生活しているわけではなく、むしろ地域の皆様にはサンライズ万世の活動を理解していただくことが大切だと考えています。

避難してきた方々は、地域の児童館やお祭りに参加したり、学校や保育園で楽しく過ごすことが、家族にとっての喜びや子どもたちの成長につながります。入所者は2年ほどで退所することが多いのですが、ほとんどの方がこの地域で生活を続けたいと希望されています。そのため、退所後は近隣の都営住宅やアパートに移り住む方が多くいらっしゃいます。特に、お母さんたちはお子さんの生活環境を大きく変えたくないという思いが強く、地域に根付いた生活を続けたいと考えています。退所後も、私たちは近隣の都営住宅やアパートに移り住んだ方々の支援を続けていきたいと考えています。お母さんとお子さんが安心して生活できる環境を作るために、職員も様々なサポートを行っています。

また、利用者の中には外国籍の方もいらっしゃいます。日本で生活しているものの、日本語がうまく話せなかったり、手続きが難しいと感じる方が多いため、そうした方々のサポートも行っています。離婚手続きには弁護士の協力が必要なことが多く、過去の辛い出来事を振り返る中で、心の負担が大きくなることもあります。そうした時には、職員が話を聞いたり、必要に応じて保育のサポートをするなど、お母さんたちの負担を軽減するための支援を行っています。また、子どもたちが学校に早く馴染めるよう、学校の先生方と連絡を取り合うこともしています。例えば、保育園に入園するためにはお母さんが仕事を見つけなければなりません。仕事を探すにはハローワークに行ったり面接を受けたりする必要があります。その間、保育園が決まるまでの期間は、職員が保育をサポートすることもあります。さらに、利用者の方によっては家事が苦手な方もいらっしゃいます。そうした方々には、掃除などの家事のサポートを行っています。また、家事のサポートが必要ない方には、将来の生活についてお話を伺いながら、親子がどのような生活を送りたいかを尊重して支援しています。

私も母子生活支援施設での仕事に長年携わっており、他の施設での経験も積んだ上で、再び母子生活支援施設に戻ってきました。最も大切だと感じているのは、利用者の方々が望む生活を実現するためにお手伝いをすることです。いくら職員が「こうした方が良い」と思っても、親子がどのように生活したいかに基づいて支援をしなければ、利用者との関係がうまくいかなくなってしまいます。私自身も、他人から言われたことに納得しなければ、行動に移すのは難しいと思います。だからこそ、親子が自分たちに合った生活を築けるようにサポートしていきたいと考えています。また、困った時に助けを求められる親子になってほしいとも願っています。助けを求めることができないと、親子が孤立し、悲しい事件に繋がることもあります。ニュースでそうした事例を目にすることもありますが、困った時に「助けて」と声を上げることで、新しい支援を受けられたり、協力してくれる人が現れたりするものです。お母さんも子どもも、困った時には誰かに助けを求められるようになってほしいと思っています。

今回、ここにお招きいただいたのは、中野さんから昭島のお祭りの際にSLの無料チケットをいただいたことがきっかけでした。そのチケットは、現在入所中のお子さんだけでなく、退所された方のお子さんにもご案内しています。皆さんが取りに来てくださる時に、退所後の生活についてお話を伺ったり、お子さんの様子を確認したりすることができるので、とてもありがたい機会です。2年間で退所していく中で、利用者の方々は学校や地域の行事に参加し、退所後も地域のお祭りなどに参加することができることは、彼らにとっての大きな喜びとなっています。昭和大地区や多くの皆様のご支援のおかげで、サンライズマンセーの利用者さんも、退所後も安心して地域で暮らしているのだと実感しています。

退所後も学校だけでなく、地域のさまざまな場で利用者の皆さんが顔を見せることがあるかと思えます。直接お話する機会は少ないかもしれませんが、皆さんが行われているイベントや活動に参加し、地域で繋がっていくことが、彼らにとって大切な支えとなっています。今後も、子どもたちが高校や大学に進学し、親御さん同士や地域の方々と繋がりを持ちながら生活していけるよう、ご協力・ご支援をお願い申し上げます。

謝辞（岩本 勝宏会長エレクト）

本日はとても貴重なお話ありがとうございました。困っている方は沢山いらっしゃると思うので、ご苦労があらうかと思いますが、今後ともよろしく願いいたします。



●ニコニコBOX

（水田 義明親睦委員）



◎国際ソロプチミスト昭島様
11月23日チャリティーランチショーのお願いに参りました。昭島館最後の取り組みです。宜しくお願いします。

◎田畑会長
母子生活支援施設、サンライズ万世、池田所長、卓話ありがとうございました。

○山中会員
昭島に帰ってきましたのでニコニコします。

・岡野幹事
池田康子様 本日は貴重なお話ありがとうございました。

8月24日（くじら祭）分
◎東京福生ロータリークラブ 米持明子様

●出席報告

（高田 啓太出席委員）



会員数	54名
出席義務会員	53名
本日の出席	38名

●委員会報告

（岡野 和弘幹事）

先ほどご案内いただきました国際ソロプチミスト昭島チャリティーランチコンサートの件ですけれども、参加者の取りまとめを事務局で行って、一括で参加申し込みをいたしますので、参加される会員は10月20日（日）までに事務局へ申し付けくださるようお願いいたします。

●次週例会予定

（重森 元樹プログラム委員長）



10月2日（水）
「卓話」
田畑勝久会長
岩本勝宏会長エレクト

●閉会点鐘

（田畑 勝久会長）